

「夏以降にコロナ再流行の恐れ 冬に大きな山も

不確実な未来に耐えよう！」

新興感染症による流行は大きな流行、小さな流行を繰り返し、ゆっくりと集団での免疫を獲得することで終息に至る。この4月の流行が収まっても、次の山が5月の大型連休後、あるいは夏休み後に再来する可能性は十分考えられる。コロナウイルスはもともと冬かぜの原因となる季節性のウイルスで、冬に大きな山が到来するかもしれない。

私たちは感染することで免疫を獲得する。ワクチンの供給が間に合うかもしれないが、いずれにせよ数年かかるだろう。ウイルスは免疫のない私たちに何度も挑み、私たちは事業所、学校、施設病院などの守り方を学んでいく。全てを停止させる必要はない。ただ重症化しやすい高齢者や基礎疾患のある人を守り、医療崩壊を招かぬ程度に乗りこなさなければならない。

大切なのは不確実な未来に耐えること。感染がどう広がるか、どれだけ続くか誰にも分からない。恐らく数年間、私たちは見通しの立たぬ社会を生きる。断続的な外出自粛の中、仕事をこなし、学校に通い、人生を楽しんでいくことが求められる。

高山義浩医師（県立中部病院）（沖縄タイムス4/29より）

皆さんは、上の記事のどこが気になるだろうか？ 私が最も気になる箇所は、「恐らく数年間、私たちは見通しの立たぬ社会を生きる」である。学校は21日から再開予定であるが、その後、「断続的な外出自粛」が想定されるのであれば、今後も「休校の可能性はある」ことを意識しておく必要がある。

なぜ、学校が再開される前に皆さんにこの記事を紹介したか？ 考えてみてほしい。

私は、皆さんを不安に陥らせたいわけではない。今後、私たちがいやでも直面するであろう現実を受け入れ、それに対する心構え、「覚悟」を持たないといけないと考えるからだ。

このような状況で、我々に求められるのは何か？ まずは、感染拡大防止の予防策を徹底し、自分をはじめとする「命」を守ること。そのためにも養護教諭が説明したことをしっかり実践しよう。

次に、「自ら学ぶ」姿勢を確立すること。学校の課題をやるのは当然のこと。21日から学校が再開されるが当面の間は分散登校となり、授業も変則的な時間割になるだろう。これについては後日、具体的な情報を提供する予定である。このような状況においては、自分自身で学習を進めていく姿勢が強く求められる。わからない箇所があるならば、友人・教師を活用して自ら解決を図らなければならない。学校もPCやスマートフォン等のICT(情報通信技術)を活用した学習支援を模索しているところだ。

新型コロナウイルスは、今、世界を変えつつある。外出できないという環境は、これからも続く可能性がある。このような状況での心構えについては、「宜野湾高校の生徒達へ(4)」で触れた内容を再度、紹介しよう。

残念ながら過去に戻ることはできない。しかし、未来の自分はコントロールできる。

少なくとも過去よりは思い通りになる可能性を秘めている。

それならば、前に向かうしかない。

(松井秀喜)

これから、私たちに強く求められるのは、「自分をコントロールすること」、「前に向かうこと」。でも、これがまた、むずかしいんだ。だからこそ、挑戦する価値は十分にある！

宜野湾高等学校長 津留一郎